

2024年の幕開け、どんな想いでお迎えかな？地球が太陽の周りをチョッと回り、1回自転することには違いないが、何か新鮮な気持ちや湧いてくる不思議な瞬間じゃな！さて、そんな新年の星たち、どんな顔してるだろう！

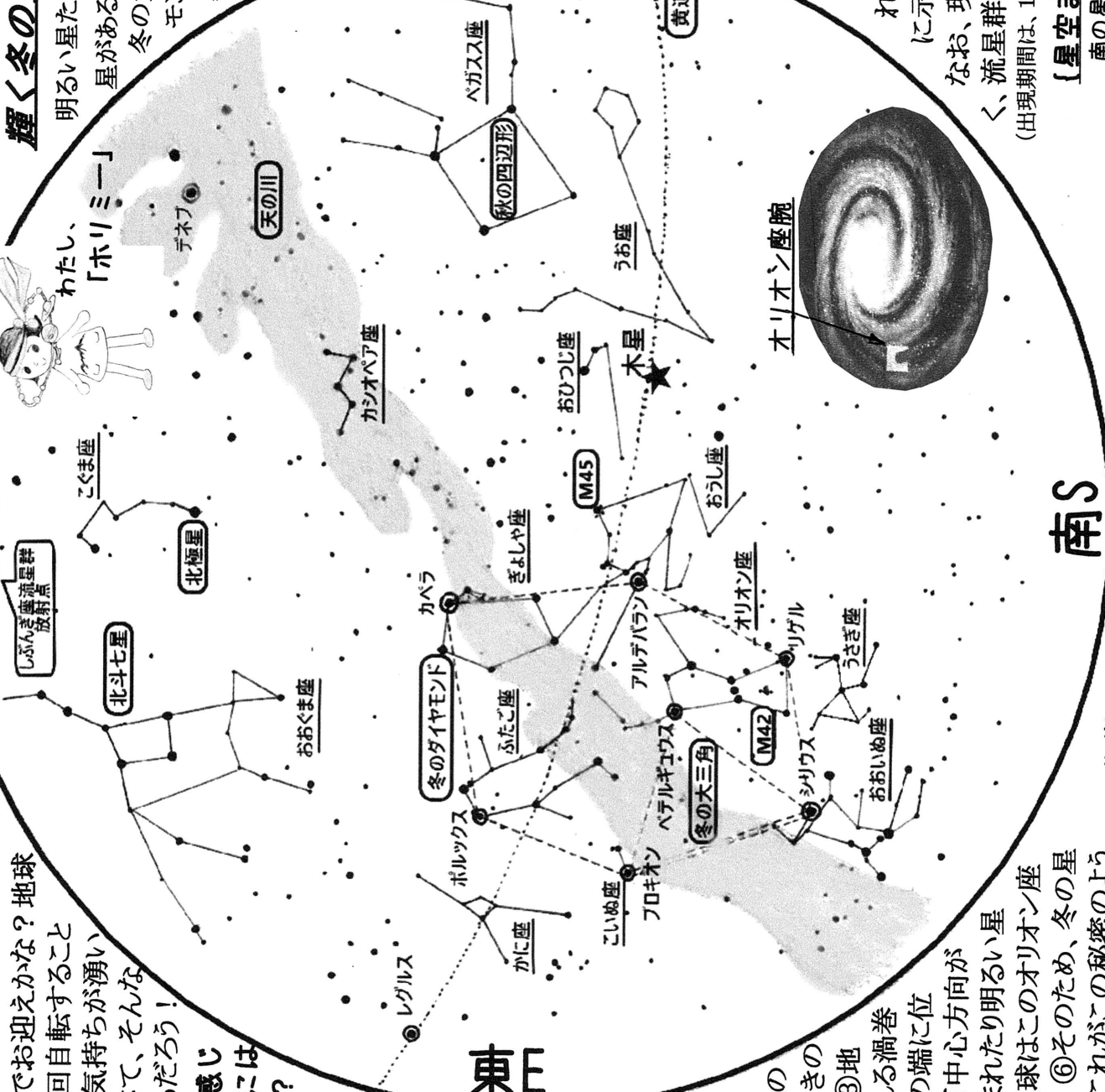
ハイ！ホリミー、前から感じてたんだけど、どうして冬には明るい星がたくさんあるの？

冬、明るい星が

多いのはなぜ？

おっ、ホリミー、良いところに気付いたね。少し難しいが、その秘密は、天の川の姿の中に隠されておるようじやよ。天の川は、天の川銀河を内側(地球)から見た姿。では、天の川銀河がどんな姿をしているか見てみよう。

①巨大な星の大集団で円盤構造をしている、②棒状渦巻銀河と呼ばれ、星や星間物質の帯(渦巻腕と呼ばれる)が渦巻きのようにグルッと取巻いている、③地球は、「オリオン座腕」と呼ばれる渦巻腕の中にあり、銀河中心方向の端に位置している、④腕はどれも銀河中心方向が明るく見えることから、星が生まれたり明るい星が多いところ、⑤冬の時季、地球はこのオリオン座腕の明るい方向を向いている、⑥そのため、冬の星空に明るい星が多い、とまあ、これがこの秘密のようじゃな。何やらチンプンカンプンで分かりにくい、宇宙の姿の一端を何とかイメージしてみよう！



輝く冬の星たちを観察しよう！
明るい星たちが多い冬の星空には、7個の1等星がある。その1等星を結んでできるのが、冬の大三角、冬の大六角形(冬のダイヤモンド)だ。これら1等星が冬の6個の星座を見つづける目印になる。まずオリオン座を見つづけよう。目印はきれいに並んだ三ツ星と呼ぶ星並び。そして、まっぶを見ながら、時計回りに明るい1等星を、目印に、残る五つの星座をつないでみよう。

しぶんぎ座

流星群はどこだ！

3大流星群の一つである「しぶんぎ座流星群」が、1月4日18時頃に極大を迎える。この流星群の特徴は、地球大気に70度近い急角度で侵入するため、活動期間が短くピークも数時間しかないとのこと。

そのため、見頃は、4日の極大時頃から午前0時頃までに限られそう。放射点は、まっぶ上部に示した北の地平線近い空になる。なお、現在、しぶんぎ座という星座は無く、流星群の名称として名を留めている。(出現期間は、1月1日～1月7日)

【星空まっぷの見方】

南の星空を見上げる時は「南」を手許に、北を見る時はまっぶを回して「北」を、同様に東の空は「東」、西の空は「西」を手許に持って、頭の上に掲げて見てね！

【黄道】

天空の星座のあいだを移動する太陽の見かけ上の通り道

- 1等星以上
- 3等星
- 2等星
- 4等星以下